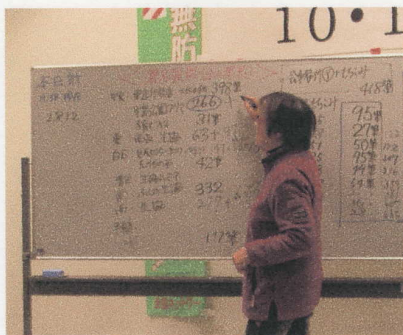


札幌市民の熱き思い おかげさまで45,734筆!

無防備地域宣言をめざす札幌市民の会 谷 百合子

10月19日、札幌市10区の各選挙管理委員会に署名を提出し、記者会見を行いました。全国・全道の支援の皆様、そして札幌市民の皆様、ありがとうございます。そして、おめでとー!



10/14 最終日の署名集計

事務所から引き上げてきた画板の山とゴミの山を眺めながら、感慨にふけております。あそこのスーパ-、ここの生協、東西南北の区役所の入り口で、真剣に署名を訴えていたお一人お一人の姿が声とともに浮かびます。「わあ、虹が出てよ。七色の虹だ、きつとい

たら、空を見上げてドンマイ、ドンマイ。中間の一番苦しい時に、こんな事言えるなんて素敵ですね。

1999年に、会の前身「無防備・非核ネットワーク北海道」を立ち上げてから8年目にして署名運動が実現したなんて夢のようです。今日も署名は選挙管理委員会で審査中であり、不安は残るのですが、私達はもう次の第二のステージの準備を開始しました。

一筆も無駄にしない!

毎日、毎日各10区の選管から、電話とファクスがひっきりなしに入ります。受任者届がない人がいる。生年月日不明代表者についての確認等々。「決して落とそうとしているのではありません。間に合うのなら調べてご連絡ください」というものです。そのたびに、事務局のものが走り、一筆たりとも無効にしないために頑張っています。

札幌の市民運動は変わります

この署名運動を取り組むにあたり、会派まわりや、市民運動グループを尋ねまわって感じたのは、具体的過ぎると行動しないと云うことです。

私達は、戦争に参加しない方法があるのなら、ともかくにもドアを叩いてみようと思いますが、「苦節〇年」の平和運動の「大御所」は固まっておりました。自衛隊問題をいつまでタブーにしていくのでしょうか?

ある女性会派は「私たちも自衛隊には反対してきたのよね」と言いますが、言うだけなら誰でもできます。必要なのは、決断と行動です。本物の平和を求めているのか、飾りだけの会か、市民は見ています。この直接請求が、札幌の平和運動に小石(大石?)を投じ、変化の波が起こっているのは確かです。

お楽しみはこれからだ

議員の中には、北海道議、札幌市議を含めて、受任者になつた方が5人います。議会での態度を賛成に決めるまでにはいたりませんが、勉強会には積極的です。

「賛否はともかく、会派として国際法も知らずに恥ずかしい答弁をしたら、後々まで記録に残り、笑いものになるよ」と会うたびにいい続けています。そして「市民は見ている」とも付け加えます。森共同代表(北海学園大教授)を中心に札幌のリベラルな識者も動き始めました。札幌市の上田市長、市議会議員、そして市民はいかなる平和をめざすのか、を話し合うためのテーブルを、私達はこの署名活動をすることで用意したのです。議論百戦の中で、一人ひとりが磨かれていき、真価を問う時が来たのです。お楽しみはこれからだ!

中島公園プリマ会場にて

